



<起>

「映画」、観てきました。

男声合唱に、宗教を超越した宗教がある。男声合唱に、哲学がある。放射能に汚染され、緑を失った大地に人が生きる。極北のノールウエイ、老人達は貧しいが本当に元気だ。

歌はうまいかと聞かれたら「no」だ。一人一人を問えば下手だ。歌はどうだったと聞かれれば「涙が出て、心を揺さ振られる程だった」、「凄いと返事をする。これは上手下手を超越した世界の歌だ。指揮者は車椅子。

こんちきしょう、こんな境地に辿りつきやがって、と、そう叫びたい程に、「フィッシャーマン」に惚れ込んだ。

大町さんの目指している合唱団は、きっこう云う合唱団ではないかと思った。人数もこの位がいいのかなと思った。

大町さん、ますみさん、前田さん、各パートリーダー、そして団員各位、騙されたと思って御覧になって下さい。後で、皆様に笑われてもいい、観て下さい。

次回、チラシをお持ちします。帆船日本丸男声合唱団と云ったら50枚くれました。何か、通じるものがあるようです。では。

(9/11、小山田豊実)

<承>

「歌え、フィッシャーマン」観ました。

大町さんからも褒められました。理想の姿であることは、よくわかりました。

でも、日本丸の現状はまだまだの感があります。まず、男声合唱はやはりベースの支えが大切だということです。彼らの音域としてはT1は日本丸と同じくらいだと思いますが、B2の下音域が恐らく我々日本人より1オクターブは低いかも知れません。その結果、倍音の効果でT1が2~3人でも十分ハーモニーが成り立っているように感じました。

それから、一番大切なことなのですが、一人一人が「歌う」という意欲にあふれていることです。僕なんぞに歌わされているうちは、まだまだ本物ではないと思います。もちろん指導者の、つまり僕自身の責任も感じますが、これからはもっと積極的に歌うという雰囲気を作りたいと思います。

僕は、時々思うのです。身体の一部が不自由な人がいたとして、リハビリに励むとします。でも、どんなに良い医者や看護婦やトレーナーのようなスタッフに恵まれていたとしても、肝心の本人に元の機能を取り戻したい、もっとリハビリに励もう！という強い意欲がなかったならば、何も前には進みません。

歌う、ということに限らず、何事もそうですが、各自が意欲を持ち、集中力を持って練習に参加しなければ、けして上達はしません。厳しくする、というのひとつ方法ではあります。

でも、大町さんから理想を伺っていますので、

そういう方向へは持っていくつもりはありません。犬や猫の調教ではないので、命令だけで人を動かすというやり方はしたくありません。

一人一人の参加意欲、自発性を育てることがもっとも大切な事だと思っています。

理想ですが、一人一人が自分の役割を意識し、音楽を表現する意欲に溢れることです。そうなれば、指揮者は要りません。

指揮者によって、振り回される指揮棒によって音楽が造られるのではなく、各自が全体のバランスを考え、歌おうとする音楽の表現意欲に溢れることこそ、一番大切で楽しくなることだと思いません。そうなった時、「明るく歌い飛ばす」という理想が実現するのではないかと、僕は解釈しています。

つい長々となりました。理想と現実の違いはあります。でも理想のイメージはずっと持ち続けたいと思います。いつか、きっと実現できると信じています。それも、近い将来に。

(9/24、前田高史)

<転>

荒れ狂う北極圏の吹雪をものともせず力強く響く男達の歌声、映画はこのような情景から始まった。フィンランドよりもまだ北に位置する小さな漁港ベルレヴォーグ、

ここになんと90年の歴史をもつ男声合唱団が存在し、今なお元気な96歳の兄エイナルと87歳の弟レイダルの「ストランド・ボーイズ」を中心として誇り高く歌い継いでいるのだ。

こんな小さな町でもいろいろの職業、経歴の持ち主がおり、人生観もさまざまである。しかし、共通しているのは歌うことが生き甲斐、心のよりどころなのである。

あふれ出る歌声は、決して洗練されたものではない、むしろ荒削りで我が国のふつうの合唱指揮者は耳をふさぎたくなるに違いない。でも伝わってくるこの感動はなんだ？！

重厚なベースの、足もとからつきあげるような響き、それぞれが個性を丸出しにしつつも想いはただ一つという不思議な調和、聴いていて「これぞ日本丸合唱団の目指すところ！」と思った。皆がよく知っている「森の教会」やロシア民謡「行商人」も歌われていて懐かしかった。合唱とは別に、ロシア・ムルマンスクの荒廃した町の様子を見て今更ながら地球規模の環境保全が急務であることを再認識させられた。

ここでお得意の蛇足であるが、この映画が敬老の日がある9月に上映されたのも意図あつてのことか、とにかく元気づけられた。9月15日以前に来場したシニアには和菓子「ほんの喜餅」（小さなぎゅうひ）がプレゼントされた。それを目当てに9月14日に行った。そこで久しぶりにT2の新西さんに出会った。

(10/7、原田 實)

<結>はまだまだ……。